

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

日本LD研究会会報

第4号



事務局：長瀬総合療育研究所内 〒164 東京都中野区東中野5-5-10 R.H.S2F
TEL&FAX. 03-3360-1855



LDと取り組んで

伊豆通信病院顧問

上村 菊郎

日本LD研究会の発足にも見られるように、LDとの用語が我が国でも漸く定着し、身近なものになりました。多様な症候群の包括ともいえるこの名称の普及はその対策を進めるうえで強い力になることと思います。用語についてはアメリカと欧州で微妙な違いがありますが、いわゆるLDに相当する人々が私達のまわりで生活していることには異論がありません。まとまった能力をもちながらアンバランスのため特定の教科について行けず、また適切な社会行動が妨げられるため特別な援助の必要な存在です。

当然のことですが、このようなLDは突然現れた問題ではありません。偏りが小さい（軽微な）ため何か不思議さはあっても気づかれずに取り残されてきました。長い間にはこのような軽い偏りが大きな負担になり、学力の低下だけでなく自信の喪失、不登校、非行など様々な問題に発展しています。いまこそ、この不思議さに目をむけ、LDへの適切な援助を実践しなくてはなりません。

この意味でLD研究会の立場を改めて考えてみ

たいと思います。現在どなたでも入会出来ますが、研究会としてLDについての共通した理解だけは持ちたいと思います。

次に、この研究会はその名称から文字通り日本を代表するLDの研究団体とみなされます。したがって今後は米国の国際的機関である Learning Disabilities Association などとの協力、交流を積極的に図らなくてはなりません。

また、国内では各地に設置されている研究団体、30を越えるLD児親の会との連絡も大切です。このためには何らかの情報交換システムが必要になります。このように課題の多い日本LD研究会ですが、今日まで、長瀬会長、下司事務局長、事務局の方々の献身的な御努力により予想を越えた発展を続けて来ました。

これからはLDの用語論、概念論にとらわれずドアを開いて前進しなくてはなりません。この意味で地道な研究と実践をモットーに御一緒に頑張らしましょう。